



国見中学校だより

うえのはら

令和5年3月16日 第7号 文責（加藤）



学校教育目標「自ら気づき、考え、判断し、主体的に行動する生徒が育つ学校」



## ○ 素晴らしい卒業式をありがとうございました！

3月10日（金）、令和4年度卒業証書授与式を行いました。前日夜の雷雨がまるで嘘のように晴れ渡り、すばらしい青空となりました。

さて、今年度の卒業生は、小学校の卒業式、中学校の入学式といずれも、在校生や来賓不在の中での式で、入学後も多くの制限や制約の中での中学校生活でした。そのため、できる限り依然行っていた通常の形での式を行えないかと検討して当日を迎えました。卒業生のマスク着用については、各家庭・個人の判断とし、在校生も体育館に入り、さらに来賓の方もお迎えしての式としました。ただ、心配だったのは、送る方も送られる方も中学校の卒業式を経験したことがないことでした。小学校とは異なる独特の雰囲気の中での国歌や校歌の斉唱など、練習期間が短く総練習も1回しかできない中でした。

静かな中に流れるピアノの伴奏を BGM に卒業証書の授与が行われ、在校生代表の送辞、卒業生代表の答辞が読みあげられ、校歌斉唱。目にいっぱい涙をため、歌っている卒業生の姿に思わず涙が溢れました。さらに、閉式後に、在校生による「いのちの歌」、卒業生による「遥か」の歌がそれぞれに贈られました。右の写真は、卒業生を送る在校生が「3年生にとって心に残る式にしたい」

「心を込めて歌を歌いたい」など卒業式に向けての想いを綴ったものです。その想いが歌声からもきっと伝わったと思います。

一方、卒業生の静かな歌いだしから、だんだんと力強く高まっていくその歌声は、私たちの感情を揺さぶるとともに、これまで関わってもらった方々への感謝と新たな旅立ちへの決意を強く感じました。マスク着用での歌でしたが、その歌声は体育館いっぱいに響き渡り、参加していた人の心に感動を与えてくれました。来賓の方からも「こんな感動的な式に参加させていただいてありがとうございました。」という言葉たくさんいただきました。国見中学校の生徒の底力を改めて知ることができました。在校生、卒業生、そして保護者の皆さんや来賓の方々、そして私たち教職員、参加した全員で作上げられた素晴らしい卒業式であったと思います。

